



福祉よこはま

社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会

「福祉よこはま」は、横浜市が編集に協力しています



特集 一人ひとりの困りごとに寄り添う地域へ ～よこはまの地区社協についてご存じですか？～



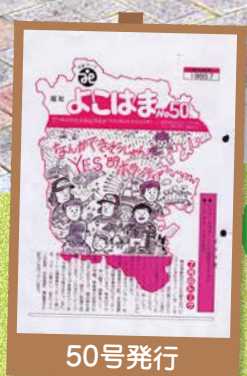
永田みなみ台地区社会福祉協議会(南区)会長・見守り隊代表
加藤倫子さん(右)とご利用者さん
(7月13日撮影:南永田団地内)
→詳しくは特集で



新橋地区社会福祉協議会(泉区)会長船越みさ子さん(右端)と
しんばし食堂で活動する皆さん
(7月16日撮影:新橋連合自治会館)
→詳しくは特集で



1号発行



50号発行



100号発行



150号発行

もくじ

福祉の仕事	神奈川区社会福祉協議会職員	p4
ボラセン情報	ボランティア活動は私たちのまちの宝物	p5
市社協情報	10月1日から赤い羽根共同募金が始まります!	p6

ここから最新号と
バックナンバーを
ご覧になれます

福祉よこはま 検索



一人ひとりの困りごとに 寄り添う地域へ

～よこはまの **地区社協** についてご存じですか？～

横浜市社会福祉協議会は今年創立70周年を迎えました。ほぼ同じ時期に創られ、長年にわたり、ともに地域づくりに取り組んできたパートナーである地区社会福祉協議会(地区社協)をご存じでしょうか。あなたのまちにもある横浜の福祉には欠かせない地区社協についてご紹介します。

よこはま地区社協の特徴

市内ほぼすべての地区にある！

全国でも珍しく横浜のほぼ全域に地区社協があります。生活に最も身近な所で同じ住民として地域づくりを行っています。
(令和3年8月現在で、256の地区社協)

対象者を限定しない活動！

子どもからお年寄り、障害のある方など、地域に暮らすみんなのための活動です。

横浜の地域づくりの基盤！

横浜に地区社協が誕生したのは昭和27年。長い歴史の中で積み重ねてきた取組は、横浜の地域づくりの基盤となっています。

身近な地域のさまざまな団体で組織！

地域住民が「自分たちのまちを良くしていこう」という気持ちで組織された団体です。さまざまな団体が、地区社協の一員として地域のために話しあい、住民同士のつながり(ネットワーク)を生かしながら活動をしています。

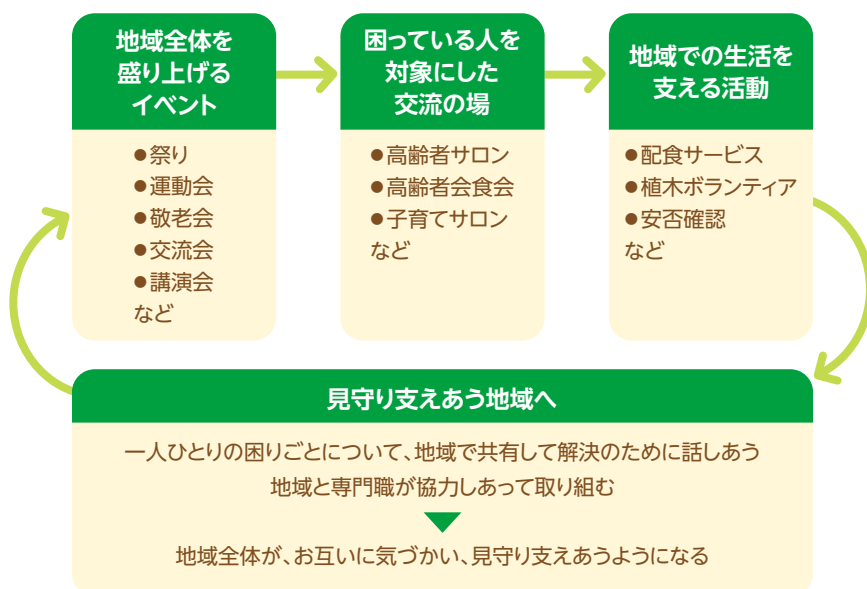
〈地区社協の主な構成〉



その時代ごとの困りごとと共に変化してきた活動

地区社協の活動は、長らく地域を盛り上げるお祭りや運動会などのイベントが盛んでした。やがてサロンや食事会などより福祉的な活動が行われるようになります。そこに参加する方の困りごとを聞いたり、参加できない方がいることへの気づきを通して、一人ひとりの困りごとに応える形で、見守り支えあう取組へと広がってきました。

同じ地域に住む住民だからこそ気づくことができる「一人ひとりの困りごと」「小さな変化」を、つながりを生かして共有し、地域でできることについてみんなで取り組んでいます。



地域によって抱える困りごとや解決したい課題はさまざまです。
困りごとの解決に向けて取り組んでいる2地区の活動をご紹介します。

泉区 〈新橋地区社協〉コミュニティしんばし食堂

新たなつながりで、 困りごとに気づきあえる地域へ

平成28年に新橋地区社協会長船越さんの「孤食をなくし、安心して集える居場所を」の一声で始まった地域の食堂。「食堂を通じて多世代交流ができ、ここにきたらホッとできる場所にしていきたい」と、しんばし食堂代表の篠塚さんは言います。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で活動が一時休止。これまで食堂を利用していた多くの人とつながり続けること、困っている人のために何かできることはないか話しあい、関係機関と連携し、食糧配布という新たな活動を始めました。食糧と一緒に「何か困りごとはありませんか？お力になれることがあるかもしれません」というお手紙を配布。すると、地域の方から「近所にお困りの方がいるようだ」との声が寄せられるようになりました。住民への活動周知も少しずつ広がっており、**新たな形の支えあい、困りごとを抱えた人に気づき、地域の中で孤立することがないように、見守りつながり続けています。**

これまで継続して活動ができたのは、食糧を寄附して下さる方、受け取られる方、つながりのあるさまざまな関係機関のご協力のお陰です。みなさまからの愛情、ぬくもりを地域の方々へお届けし、恩返しをしていけたら嬉しいです。

しんばし食堂代表 篠塚さん▶



何かあっても声を掛けあえる関係をつくりながら、みんなで互いに支えあう「ぬくもりのある町しんばし」を目指していきたいと思っています。

◀新橋地区社協会長 船越さん



◀配布時の様子



▲7/16開催時の食糧配布品

南区 〈永田みなみ台地区社協〉永田みなみ台地区見守り隊

住民同士が見守り・支えあう仕組みへ

地域での孤独死や居住者の高齢化、認知症の方が増加した背景から、平成22年に地区社協で「永田みなみ台地区見守り隊※」を立ち上げました。「**地域の中で見守りができれば、認知症の方も安心して暮らせる**」、「**団地内なので顔見知りも多く、声掛けや見守りなどの活動なら参加できる**」といった声があり、見守りの必要を感じた住民が活動をスタート。その後、見守りの対象を広げ、現在は75歳以上の方を対象に30分前後でできる「話し相手」「買い物代行」「ごみ出し」などのちょっとしたボランティア活動を行っています。

認知症サポーター養成講座の開催や広報紙を通じた「見守り隊」の活動紹介などの取組を重ね、徐々に地域の中で見守りの意識が浸透してきています。また、定期的に話しあいの場を設け、情報やメンバー相互の気づきを共有したり、地域ケアプラザや関係機関との連携を図っています。そうしたさまざまな取組や活動の積み重ねがあるからこそ、住民同士による自然な声掛けや助けあいが広がっています。

※旧「認知症見守り隊」平成25年度に改称。

認知症サポーター養成講座を受講した見守り隊のメンバーが、認知症が疑われる方に気づき、関係機関へつないだり、団地内で徘徊する認知症の方への声掛けができるようになってきました。活動当初から、**地域の中で顔の見える関係を築くこと、無理はせず自分達のできる範囲で活動することが大事**と考えています。



▲食事をしながら見守っている様子



話し相手ボランティア



ごみ出しボランティア



永田みなみ台地区社協会長 加藤さん▶



■神奈川区社会福祉協議会職員

みや じ ゆう き
宮地 悠希さん(左)

ね もと こう すけ
根本 洸介さん(真ん中)

はや さか まり こ
早坂 真利子さん(右) に聞きました

暮らしやすいまちづくりの 実現に向けて地域の方と一緒に 取り組んでいます。

区社協が行う地域づくりとは？

- ▶ 困りごとを抱えた方が孤立しないよう、地域や関係機関とともに話しあいを重ね、寄り添い支えあえる地域づくりに向けて取り組んでいます。例えば、見守りの目を広げていくため、研修会を行い「なぜ見守りが必要か」考える機会を持ったり、地元の大学生や商店街、自治会と連携し、認知症の理解を広げるなど、さまざまな取組を進めています。

心掛けていること

- ▶ 地域の情報を集め、地域の方が「今」何に困っているか、どのような不安や想いを抱えているか把握し、相手の立場に寄り添うことを大事にしています。そして「困りごと」を共有し、何ができるか一緒に考えていくことを心掛けています。基本的なことですが、あいさつや笑顔、コミュニケーションを大事にし、地域の方と信頼関係を築いていけるよう努めています。

難しいと感じていること

- ▶ 「地域で集まれる居場所があれば」、「こうしたら地域がより良くなるかもしれない」と思っても、地域の方が納得し、活動への意義ややりがいを感じてもらわなければ、新たな取組は生まれません。また、その成果はすぐには現れないこともあり、時間を掛けて丁寧に働きかけています。多岐にわたる仕事で大変な面もありますが、職場内の支えあいを力に取り組んでいます。



仕事の魅力

- ▶ 地域の方と一緒に活動ができることです。また、区役所や地域ケアプラザなどの関係機関と連携し、働きかけていくことによって、地域が動き出す過程に関わることができるのがこの仕事の魅力です。

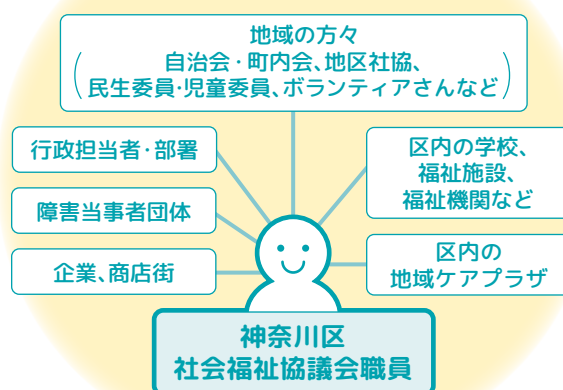


日々の仕事を通じて、
地域の方との刺激的な出会い・ふれあい・
交流ができます。

神奈川区社会福祉協議会とは

神奈川区社会福祉協議会は社会福祉法第109条に基づき設置されている民間団体(社会福祉法人)です。神奈川区内の地区社会福祉協議会、自治会町内会、民生委員・児童委員、ボランティアグループなど地域活動団体のみなさまとの連携・協働により「誰もが安心、安全に暮らせる」「自分らしく参加できる」まちづくりを目指しています。

● 区社協職員が普段接する機会が多い人たち ●



▲ 話しあいでは活発な意見交換が行われています

◆ この記事に関するお問合せは
横浜市社会福祉協議会 企画部企画課 ☎ 045-201-2090

横浜市内の
福祉人材に
関する
求人情報 ➡



ウェルじゃん
求人情報



横浜市
介護人材情報

ボラセン情報

ボランティア活動は 私たちのまちの宝物

これまでボランティア活動は、制度やサービスでは満たすことのできない隙間の課題に対応してきました。また、身近な地域での活動が定着してきたことにより、ボランティアと意識せずに、地域の支えあい活動に参加する方もいます。

私たちのまち横浜でも、ボランティア活動は長い年月をかけ、暮らしの一番近くで人と人との「つながり」を大事にしながら育まれてきました。

市・区社協のボランティアセンターを振り返りながら、これからのボランティア活動についてまとめてみました。

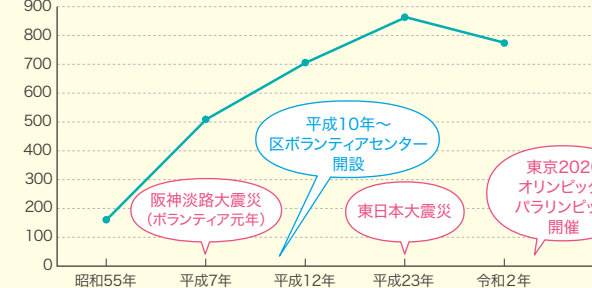
横浜市・区ボランティアセンターのあゆみ

- 昭和26年 横浜市社会福祉協議会 法人化
- 昭和51年 横浜市ボランティア連絡会と各区にボランティア連絡会が組織化される
- 昭和52年
 - 音声訳・点訳ボランティア講座の開催
 - ボランティア担当職員の配置
- 昭和56年
 - 市社協が開港記念会館から健康福祉総合センターへ移転
 - 横浜市ボランティアセンター設置
- 平成10年 各区にボランティアセンターが順次設置される
- 平成25年 市ボランティアセンターにおけるボランティア登録制度の廃止（ボランティア登録は各区ボランティアセンターにて実施）

これまでボランティア活動は、その時代に応じてさまざまな形で展開されてきました。

昭和56年の国際障害者年では、福祉ボランティアの認識が高まりました。平成7年の阪神淡路大震災をきっかけに、ボランティア活動も多くなり、ボランティア元年と呼ばれました。平成12年には介護保険制度がスタートし、公的なサービスに加えボランティアなどインフォーマルサービスとの連携が重要とされました。

ボランティア活動者数の推移（全国社会福祉協議会）



区ボランティアセンターの職員にインタビューしました！

▲区ボランティアセンター職員

区ボランティアセンターの役割

- ボランティアに関する相談・情報提供
- ボランティア登録、コーディネート
- ボランティア活動に関する各種講座・交流会の開催
- 福祉用具貸出
- 善意銀行の寄附品の受付

① 日頃行っているコーディネート業務内容を教えてください。

活動したい方から興味のある分野や特技などを伺い、活動先を紹介します。ボランティアを依頼したい方からは、希望内容を詳細に聞き、活動者の調整をします。ボランティアと活動先の間に立ち、それぞれの思いを聞き取り、コーディネートしています。

② コーディネートするうえで心掛けていることは何ですか？

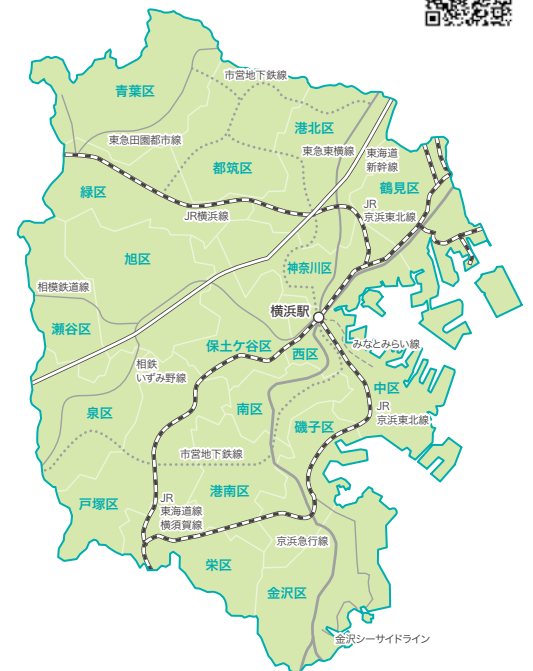
活動希望の方には、なるべく早く活動をご紹介できるように調整したり、活動が終わったあとは、感想など状況を聞いてフォローすることを心掛けています。

また調整するにあたって、他の職員や関係機関などさまざまな立場の方から話を聞き、自分の物差しだけで判断しないようにしています。

③ コーディネートをしていて嬉しかったエピソードは何ですか？

双子の障害児がいるお母さんから、学校への送迎ボランティアの相談を受け、6名の方が活動していただけることになりました。お母さんとボランティアの皆さんとの情報交換の機会をつくり、お母さんから活動中どう対応したらいいかを教えてもらうなど定期的に話し合いをしました。お子さんの個性を大切にしながら、より良い活動になるよう、それぞれの思いを共有できたことがとても嬉しかったです。

区ボランティアセンターのホームページはこちらからご覧ください



これからのボランティア活動

ボランティア活動を始めたきっかけや目的は、一人ひとり違います。しかしそこには、「困っている方に手をさしのべたい」という共感と、受け手側によるその想いの受容から成り立っています。

今、地域のつながりが弱くなっているといわれますが、

「支援する側」「される側」の区別なく、お互いさまで住み慣れた地域で暮らし続けられることが望まれています。一人ひとりが住んでいる地域に目を向け、できることの接点を探して関わることで、住民同士のつながりが広がる地域社会をともに目指していきましょう。



市社協地域活動部長 池田

横浜市ボランティアセンターより

「何かボランティアをしてみたい」と思ったら、ぜひボランティアセンターにご相談ください。

横浜市ボランティアセンター

☎045-201-8620 ✉yvc@yokohamashakyo.jp

市域で募集しているボランティア情報はこちらから



今年のPR大使はグレビーシマウマの「ココロ」に決定！



10月1日から
赤い羽根共同募金が始まります！

今年は、野毛山動物園で飼育展示されているグレビーシマウマの「ココロ」が共同募金PR大使に就任されました！

共同募金は、地域で活躍する福祉団体や福祉施設の活動支援に役立てられます。「ココロ」とともに、共同募金を応援してください！

共同募金を
よろしくね！

500円以上の
募金をしてくださった方には、
「ココロ」のピンバッジを差しあげます。
ご希望の方は、お問い合わせください。



【問合せ】

横浜市社会福祉協議会 地域福祉課 ☎ 045-201-8617

賛助会員のご紹介

ご支援・ご協力ありがとうございました。令和3年1月16日～7月15日 新規受付・継続受付分 順不同

団体会員

- NPO法人 そうの歌 様
- 株式会社 エースプラン 様
- 株式会社 よこはま住生活 様
- 税理士法人 仲田パートナーズ会計 様
- 大黒倉庫 株式会社 様

- 特別養護老人ホーム 今宿ホーム 様
- 丸五運輸 株式会社 様
- モービルオート 株式会社 様
- ユークス総合建築 株式会社 様
- 有限会社 アーバンハウス 様
- 横浜商工会議所 様

個人会員

- 相澤 直樹 様
- 石田 隆 様
- 青木 伸久 様

- 内海 利行 様
- 加藤 仁美 様
- 齋藤 史郎 様
- 坂田 謙太郎 様

- 高橋 昌三郎 様
- 中野間 誠 様
- 中丸 良久 様
- 福田 康雄 様

- 星崎 清美 様
- 我妻 八重子 様

詳しくはホームページをご覧ください ▶

【問合せ】横浜市社会福祉協議会 総務部 ☎ 045-201-2096



みんなのきもち あいがとう

みなさまからお寄せいただいたご寄付は、地域の助けあい、
支えあい活動のため、有効に活用させていただきます。



よこはまふれあい助成金 助成事業 NPO法人フードバンク浜っ子南

食べられる安心を届ける支援活動

2020年春、新型コロナウイルス感染症拡大により経済的困難を抱える方が増える中、食べ物を分かち合い、食べられる安心を届けることで社会のセーフティネットの一部となることを目指し、フードバンク浜っ子南は設立されました。主にひとり親家庭を対象として、横浜市南部地域で定期的にフードパントリー(※)の活動を行っています。活動を続けていく中で支援対象の方は増え、さらに活動場所を広げながら支援を続けています。

団体では、ホームページで寄付を呼びかけるほか、設置場所として協力をしていただいている店舗等で食品を集めています。

※フードパントリー…生活困窮者などに食品を無償で提供する支援活動

ありがとう メッセージ

フードバンクは個人・団体・企業の皆様から余剰の食品の寄付を募り必要な方々へ手渡し活動です。自分たちの暮らす地域で食支援の流れをつくりだすことで、地域に助け合いの輪を広げていくことができます。この1年、浜っ子南には多くのご支援、ご協力をいただきましたが、まだまだ多くの方が食の支援を必要とされています。活動の継続には提供食品の確保、食品保管庫の維持、運搬手段が欠かせません。フードバンク活動を社会のセーフティネットのひとつとして定着させ、継続し、発展させることにより、誰ひとり取り残されることのない豊かな社会を創ることを願って活動しています。今後とも皆様の温かいご支援をよろしくお願いいたします。



▲子ども用のお菓子詰めあわせ



▲フードパントリーの会場

横浜市ボランティアセンターでは、寄付のご相談をお受けしています。☎ 045-201-8620

寄付者のご紹介

ご支援・ご協力ありがとうございました。順不同 令和3年4月1日～6月30日受付分

善意銀行 金銭寄付者

- 吟楽会 様
- 永野福祉ネットワーク 庭木グループ 様
- よこはまシニアボランティアポイント登録者 様
- 日清オイリオグループ 株式会社 様
- 株式会社 高栄設備工業 様
- 匿名(1件)

善意銀行 物品寄付者

- 株式会社 セブン-イレブン・ジャパン 様
- 宮内建設 株式会社 様
- 公益財団法人 みずほ教育福祉財団 理事長 塚本隆史 様
- 一般社団法人 横浜港振興協会 様

- KDDI 株式会社 南関東総支社 様
- 日本調剤 株式会社 横浜支店 様
- R.T 様
- 株式会社 NB建設 様
- 匿名(1件)

よこはま あいあい基金寄付者

- よこはまシニアボランティアポイント登録者 様
- 匿名(1件)

障害者年記念基金寄付者

- よこはまシニアボランティアポイント登録者 様

福祉基金寄付者

- よこはまシニアボランティアポイント登録者 様
- 匿名(2件)

ヨコハマ寄付本寄付者

- 岩田 弘 様
- 横浜市社会福祉センター利用者一同 様
- 社会福祉法人 横浜市神奈川区社会福祉協議会 様
- 老人福祉センター 横浜市野毛山荘 様
- 横浜移動サービス協議会 様
- 匿名(53件)

※寄付者については、
横浜市ボランティアセンターの
ホームページでも掲載させて
いただいています。



みんなの声



前号の感想

つながる、よりそう、助け合う孤独を感じて辛い思いをしている方々に「一人ではないよ」とこの冊子を通じて伝えたいなと思います。
(青葉区 F.I)

初めて見ました!! 福祉についての仕事など普段知れないことがあったので、とても参考になりました。
(都筑区 M.H)

コロナ禍に負けずに地域で活動しているグループを応援したいです。
「青桐茶房お弁当袋」作り手が自由に組み合わせて工夫して、一点物の商品に作り上げるすばらしさに感動しました。
(瀬谷区 H.K)

ボランティアとよく聞くものの、どうやって行動を起こしてよいものか?と思われる人々が多いと思っています。行動を起こすこと以外に、福祉よこはまを読むことも行動の第一歩と感じています。(意識が高まれば行動につながる)
手話サークルに加入し学んでいます、振り返るとサークルに加入する行動のきっかけが冊子だったのかな!
(青葉区 O.I)

私も地区センターで、お弁当作りのお手伝いをさせていただいているので、「りんどう」さんの特集はとても良く大切にしまっておきます。今はお休みしていますが、早く美味しいお弁当作りが出来ますように。
(鶴見区 K.S)

「りんどう」の活動に興味を持っています。東戸塚地区ではありませんが、友人が同じ様な活動をしていて、よく話を聞いていました。友人と違って私は料理が得意ではないので無理だと思っていたのですが、今回「りんどうの活動」を読んで、自分に出来るかどうかわかりませんが関連情報を調べてみようと思いはじめました。
(旭区 M.I)

りんどうのお弁当の彩り、盛り付けとっても美味しそうです。写真からも真心がこもっているのが伝わってきました。お弁当に添えるお手紙の訪問の際に会話のタネになるような話題で素敵ですね。消毒液や花束のプレゼント、利用者の方もうれしかったと思います。
(青葉区 J.K)

福よこクイズ

ご応募・ご感想
お待ちしております!

「介助犬チャリティーグッズ 携帯チャーム2個セット」プレゼント!

手足が不自由な方の手助けをする「介助犬」の姿をしたストラップです! 形はお座り・お昼寝・かけっここの3種があり、身に付けていただくだけで介助犬が広まるきっかけに♪
(社福)日本介助犬協会は「人にも動物にもやさしく楽しい社会をめざして」をモットーに介助犬の育成と普及活動、人と犬が笑顔になれる活動を行っています。



2個セットの組み合わせはお任せ下さい。

〈ホームページ〉<https://s-dog.jp/> (日本介助犬協会)

- Q1** 特集: 横浜に地区社協が誕生したのは昭和〇〇年です。(数字2文字)
Q2 福祉の仕事: 今回福祉の仕事でインタビューした3名は〇〇〇区社会福祉協議会の職員です。(漢字3文字)
Q3 市社協情報: 赤い羽根共同募金 今年のPR大使は野毛山動物園で飼育展示されている、グレイシマウマの「〇〇〇」です。(カタカナ3文字)

応募方法

はがき・FAX・Eメールにて、
右に記載の項目をご記入のうえ
お送りください。

抽選で**15名**の方に
プレゼントを差し上げます。

締め切り:
令和3年10月29日(金) 必着

【応募先】

〒231-8482
横浜市中区桜木町1-1
横浜市社協
「福よこクイズ」係

FAX: 045-201-8385

Eメール: fukuyoko@yokohamashakyo.jp

【個人情報取扱】

※応募に関わる個人情報については、当選者への
発送及び福祉よこはま紙面作成の参考のためにのみ
利用させていただきます。

【項目】

- 1) Q1~3の答え
- 2) 郵便番号・住所
- 3) 氏名(ふりがな)
- 4) 年齢 5) 電話番号
- 6) 福祉よこはまの入手方法
- 7) 福祉よこはまの感想
- 8) 「みんなの声」次号掲載時の氏名の掲載可否(匿名希望の場合はイニシャルを記載)



前号199号の福よこクイズの答えは、Q1: りんどう Q2: ピア Q3: 6 でした。たくさんのご応募ありがとうございました。

編集後記

「困った時はおたがいさま」一人ひとりが大切にされ、安心して暮らせる地域を築いていくためのヒントを得ることができたのではないのでしょうか。この特集記事が、自分の住んでいる地域の活動に関心を持ち、何か始めるきっかけになれば幸いです。

次号 ▶ No.201 令和3年12月発行予定

〈発行〉
社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
〒231-8482 横浜市中区桜木町1-1
☎045-201-2090
FAX: 045-201-8385
Eメール: fukuyoko@yokohamashakyo.jp
URL: <http://www.yokohamashakyo.jp>
〈デザイン〉
株式会社 オールスタッフ

「福祉よこはま」は、共同募金配分金の一部を活用して発行しています。



ほだ、
おこはま、は
あったかい

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

横浜市社協は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

広告

例えば

- アナタも身近な「見守りの担い手」に!**
- ☆ご近所のお茶会などで契約トラブルの情報交換
 - ☆消費者被害にあって困っていたら消費生活センターを案内

高齢者に多い消費者トラブル

- ① ネット通販で注文した商品が届かない
- ② お試しのつもりが定期購入
- ③ 無料点検からの強引な屋根工事勧誘

横浜市消費生活総合センター

消費生活相談電話

TEL. **845-6666**

FAX. 845-7720



令和3年度

<https://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

全国200万人加入!! 日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償 ボランティア活動保険



保険金額・年間保険料（1名あたり）

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金			1,040万円
	後遺障害保険金			1,040万円(限度額)
	入院保険金日額			6,500円
	手術保険金	入院中の手術		65,000円
		外来の手術		32,500円
	通院保険金日額			4,000円
賠償責任の補償	地震・噴火・津波による死傷		×	○
	賠償責任保険金（対人・対物共通）			5億円(限度額)
年間保険料			350円	500円

商品パンフレットは
コチラ



（ふくしの保険
ホームページ）

団体割引 20%適用済／過去の損害率による割増引適用

＜基本プランに加入される方へ＞

基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。

◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。

※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

ボランティア行事用保険（傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険）

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償！

送迎サービス補償（傷害保険）

送迎・移送サービス中の自動車事故など
によるケガを補償！

福祉サービス総合補償

（傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険（オプション））

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中の
ケガや賠償責任を補償！

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、パンフレット・詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課〉

TEL: 03 (3349) 5137

受付時間：平日の9:00～17:00（土日・祝日、年末年始を除きます。）

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03 (3581) 4667 FAX: 03 (3581) 4763

受付時間：平日の9:30～17:30（12/29～1/3を除きます。）

●この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。